

第2回 東かがわ市地域公共交通活性化協議会

日時 12/25(水)14:00~16:10

場所 東かがわ市役所3階大会議室

■議事次第

3. 東かがわ市の公共交通の現況と問題点・課題について

【現況・アンケート部分】

原副会長: 3,000人の無作為抽出で地区ごとにある程度分けているのか、それとも完全にランダムか。

事務局: 完全ランダムにしている。

原副会長: 人口比率と回答比率で極端な差は生じていないか。

事務局: 配布率は概ね人口比率と同等であるが、回答率は回収率に出ている通り、若干地域差がでている。

原副会長: 白鳥地区で回収率が70%を超えていて群を抜いて高かった。その要因は分かるか。

江元委員: 地域福祉部会の中で高齢者(75歳以上)を対象としたアンケート調査を取っている。家からの送迎についてアンケートを取らせてもらって今年度中に集計をする予定。そういった調査をしたことが要因かなと思う。

原副会長: 各地区別でクロスを取っていると理解している。地区別集計も大事だと思うが、年齢別の集計も大事ではないか。通学世代・通勤世代・高齢世代が各地区でどういう問題点を持っているか、調査されているか。

事務局: 今回は年齢別までは集計していないが、課題になりそうなところがあれば年齢層によるクロス集計も含めてより深く分析していきたい。

宮崎会長: 交通事業者の方からご意見あれば。

佐藤委員: 先ほど説明の中であったとおり、バスが遅れてくる、いつ来るか分からないというご意見をいただいている。三木町や高松市内などで遅れが生じている。運転士には遅れを取り戻そうとするなどは教育しているが、少しスピードを上げていくように聞いている。運転士の方も遅れたら遅れたでお客様に気の毒だと思ってスピードを出しているところもあると思う。最近、バスロケーションシステムというものが都会の方ではある。そのシステムを導入するまでには至っていないが、ここ1~2年ぐらいである程度整備していかないといけないと思っている。ただ、全てのバス停にあと何分で着く、という表示を出すのは厳しいので、3~4年したらスマートフォンで見られるようにする形になると思う。バスの待ち環境についてもご意見をいただいている。暑い中、寒い中待っていただいているということは認識している。年間20台ぐらい新しくベンチを作って、壊れたベンチを直したり新たに設置したりしているが、どうしても道路状況等によってイス等を置けないところもある。屋根についてはバス停近辺の方のご了解を得ないといけないので、これから増やすのは難しいのではないかと感じている。また、乗り継ぎの時間の調整についてご意見をいただいたが、あまりシビアに乗り継ぎを設定すると遅れが発生することがあるので乗り継げなくなる恐れがある。今は26分待ちが一番長いということになるが、それぐらいは仕方ないかなと思っている。買い物や通院でバスの利用率が0%という施設もあり、それは対応を考えないといけない。病院では早くいけば早くみってくれるということもあると思う。病院のスタンスもあると思うが、バスで来た方には優先的に診てもらえるなどの優遇策があれば良いと思う。

宮崎会長: バス車両に GPS はついていないのか。

佐藤委員: 現在はついていない。

宮崎会長: スマートフォンなどでグーグルマップ上に車両の位置情報を表示できるものをいくつかの会社が出している。海外などでは予約した車両がどこにいるか、あと何分で来るか、というのがスマホで分かるようになってきている。初期投資がかなりかかるので難しいかもしれないが、情報提供の仕方を工夫することで安心感を与えられるかもしれない。病院や買い物での利用が少ないという意見もあったが、商業施設等の方とタイアップすることもあり得ると思う。アンケートの中に出て来ていたが、車の運転がしんどいという方も少なからずおられると思うし、ポイント 2 倍デーというような日には高齢者が日中車を運転している場面をよく見かける。

原田委員: アンケートを 1 週間で 400 部配布してほしいということで当初依頼があり、2 週間に延ばしたが、結果的には 300 部ぐらいしか配れなかった。タクシー利用者はほとんど固定化されているような状態である。中を読んで回答してくれるかどうかは定かでは無かった。枚数は配っていただいたが、有効に回答していただけたかは分からないところではある。タクシーの現状としては、8 時～11 時の午前中に 1 日の半分ぐらいの需要が集中し処理しきれない状況にある。買い物や通院などで、人が動く時間帯が重なっている。昼からは人があまり乗らない状況で、アンバランスな状況である。タクシー業界では人材不足であり、お客様を待たせている状態でご不便をかけている。

木村委員: こちらの状況も同様。利用者は年寄りばかり。(調査票を: また帰って出すわ、と仰っていただいた方も多いが、どの程度返してくれるかは分からない。封筒の糊がついていなかったのが面倒という意見もあったように聞いている。回収率が悪いような気がした。設問が高齢者には難しいような内容もあったように思う。その辺りが反省点。我々も運転士不足で午前中はパニック。15 分も待つと断られるが、東讃に掛けても同じ状況だったからと帰ってくる人もいる。心細くなるように感じることもある。

宮崎会長: p.87 で配車断り等の状況を見ていて、配車断りがほとんど無いとした方が 6 割弱となっていたこともあり、気になったところではある。状況は今後もよく見ていくようにしたい。

【問題点・課題部分】

柴山委員: 確認だが、地元の方々は今回の資料を事前にご確認いただいているか。

事務局: アンケートを 12 月上旬まで取っていて、集計・分析ができたのが最近であり、事前には送付することはできていない。

柴山委員: 一度持ち帰っていただいて、意見を改めて募った方が良いのではと思う。また、内容をもう少しかみ砕いて説明していただいた方が良いと思う。例えば「モードの役割分担」と言われて関係者間で認識の統一できているか疑問。私の理解ではドア to ドアが望ましいが、それをやっていくためにはかなりの財政的負担が必要で、何でもかんでも走らせるのは厳しい。幹線・支線を整備して、乗り継ぎという不便さをお掛けするが、そこを理解していただいてきっちり乗り継いできてね、というものを「役割分担」と認識している。そこを共通認識として持つておけるようにした方がよい。どういうことを意味するのかを考えていただきたいと思う。使っている用語は横文字が多いので、分からない文言などを積極的に言っていた方が良いと思う。方針を決めることが今回の会議では重要なので、少しでも疑問に思うところがあれば仰っていただきたいと思う。もう 1 点、行政の方向けに。今、網形成計画について策定をいただいているが、国土交通省としてはコンパクトプラスネットワークとして、H26 に都市再生特別措置法と地域公共活性化再生法を改正している。現状では人が住んでいるところにバスを通す、スーパーができてからバスを通す、というような形でネットワークが後追いになっている状況である。

人口が増えている状態ではそういうやり方もあったが、今はそうではない。地域でどういうふうにしていくかが鍵。地域で幅広くまばらに住んでいる状況が今後も進展していくことになると思う。昔から住んでいる土地を離れるということは難しいところだと思う。人の居住という点もあるが、施設をどう配置していくかも大事。車じゃないと行けないような場所に公共施設を作ったら車でしか行けなくなってしまうので、公共施設等を整備する際には立地適正化計画も踏まえて考えていただきたい。

事務局:ご指摘の通りと思う。(2020年の3月末で骨子案を出そうと思っており、そのベースとなる0次案を提示させていただいている。ご意見を出していただいて、この場限りではなく各コミュニティ協議会とも意見交換をして組み上げていきたいと思う。コミュニティ協議会が無い地域では市民会議という形を取って市民の方々から公共交通に関する意識を持っていただいている方、20~30人程度に集まっただき、ご意見をいただく機会を設けたいと思っている。この機会以外でも随時ご意見をいただく形になると思う。

4. 東かがわ市地域公共交通網形成計画の骨子案について

宮崎会長:こういった計画づくりで専門用語が多く出てくることがあるが、そういう場合には用語集を付けることがある。そういう対応で良いと思う。課題4として担い手確保を挙げられているが、一方で、人材の不足はどの分野でも多くあるが、タクシーは限られた供給量で収益を上げるには乗合という形も考えられるだろう。近い時間帯で共有するというようなやり方もあり得ると思う。この協議会で運行が認められれば乗合もできたかと思う。1点注意しないといけないのは、来年の通常国会で議論される予定になっている法改正の動きも見据えていく必要があると思う。特に計画の中では資料2の下半分が重要になると思うので、積極的にご意見をいただきたい。

江元委員:市内で生活している人が実際に困っていることに対して、福祉の中では生活支援、民間の方が送迎をしている団体もある。それは社協が支援マップとしてまとめている。行政も高齢者や障害者に沿った施策があると思う。そういった方々との連携が必要だと思う。公共交通の話だけであれば別かもしれないが、様々な面で情報共有を図れると良いと思う。使えるものは使った方が良い。

宮崎会長:ご指摘の通りと思う。サービスをする方が出向くということも移動スーパーなどの事例などである。「住み続けたくなくなる」という視点も加えていただいているので、その観点からの指摘もあると良いと思う。

原副会長:観光は攻めの部署である。やっていて楽しいし、失敗しても良い。公共交通は守りの部署。出された資料でも緑色の部分を読むとちょっと便利になるのかな、というような形になる。計画期間の5年間で人口が5,000人ぐらい減る想定であるとする、その状況下で使える計画なのかが疑問。新しい試みで、全然失敗しても良いと思うが、いろんなことをチャレンジしてみることを載せてみてはいかがか。とても現実的で実現できるのだろうと思うが、ちょっと便利、というぐらいのものに留まっている。そんなに変わらないのでは、という印象を持つ。もうちょっと何か「こういうことをやってみよう」という風なものができれば良いと思う。

宮崎会長:確かに観光の視点は抜けていると思う。白鳥動物園は車で行く場所でありながら、公共交通で行きたいニーズもあると思う。香川県は通勤族が多くいる場所でもあり、東京から来る人は車を持っていないこともある。ぜひそういった方の取り込みという視点でも良いと思う。

酒井委員:東かがわ市の観光の状況を説明したい。観光基本計画の策定を現在進めているところである。結果として出ていることは、基本的には観光客はマイカー利用がほとんどということである。それを踏まえて計画をどう作るか悩んでいる。現状ではマイカー主流なのでマイカーをターゲットにした誘客にしないといけないと思っている一方、面白い交通手段やそこに行くまでに楽しい乗り物が無いかなどと思って

いる。公共交通については、今後コミュニティ協議会に入っていく形になるが、役割分担と乗り継ぎをどう考えていくかが大事になると思っている。乗り継ぎで良いかということ地域がしっかり考えないといけないと思っている。具体的には、丹生の方が白鳥病院に行くのに乗り継ぎになる状況を考えないといけないと思う。そういう観点で考えていただくことをコミュニティ協議会にお示ししないといけないと思う。

宮崎会長: データ上ではマイカー主流でマイカーじゃないと行けないような場所になってしまっているが、「こんなまちでいいのか？」ということを思いながら取り組んでいただきたい。あまりインバウンドに頼りすぎない方が良くと思うが、現状、香川県は外国の方が多く来られている。高松空港の利用率が全国の他の地方空港に比べて伸びている。そういう方は日本で車を運転できない方が大多数。いろんな交通手段があると思うが、どんな方でも来れるような地域になると、外の人も中に来やすいが、逆に中の人も外に行きやすい状況になる。どういう風に考えて、どう取り組んでいくかは地域の方々に委ねられている。チャレンジするようなメニューを入れても良いのかなと思う。5年間の中でチャレンジしてみて、状況が悪ければ修正するというような形でも良いと思う。ぜひ色んなご意見をいただければと思う。

灘井委員: キーワードとして「持続可能」という話があった。バスの運行便数などの話もあったが、担い手の確保などもあり我々も難しい現状である。供給側のリソースが限られている中で、需要に無駄のない形で割り当てていく形を作っていくことが大事だと思っている。日常利用が土台としてあるうえで観光をプラスしていくものだと思う。資料2の右下にあるような地道な対策を取らないといけないと思う。駅のバリアフリーについてはお金もかかる話なので費用負担等のご相談をさせていただければと思うし、サインを作るとか乗り継ぎを便利にしていくところは比較的やりやすいところではないかと思う。引田線が遅れるのはイメージがつくが五名福栄線がどのくらい遅れるかはイメージがつかないところもある。そうした中で乗り継ぎができなかったというような事例はできるだけ避けたい。3月に我々もダイヤ改正をしているが、行政にも早めにダイヤ改正をお知らせするようにして時刻調整ができるようにしている。

宮崎会長: 香川県内でJR駅800m圏内に住んでいる人は20%弱。それ以外の方は鉄道を使わないかバス等を使ってアクセスする形になっている。特急が停まる駅でも駅前にタクシーがない状況はよくある。乗り継ぎが悪くても待ち時間が楽しく過ごせるような場所があると良いと思う。交通事業者にお願いするというよりも地域のコミュニティになるような場所があると良いと思う。いまは現状ではJRを使わない人は駅に寄りつかないような状況だと思う。単なる乗り継ぎ場所ではなく、乗らない人も行けるような場になると良いと思う。

田村委員: 市内でアンケートを取ったりするなど公共交通の分野に大きく発展していると思うが、骨子案に書かれているように東かがわ市は高齢化率が上がっている。都市計画でも県が委員会を立ち上げ、そのゾーン中に東かがわ市が入っていたりする。いずれはそうなるかなと思うが、現状の生活スタイルでは、バス路線沿線はどうにか使えると思うが、そこに行くまでのタクシーを利用したり送迎をお願いするしかないという状況。これから先、高齢化が進むと同時に免許返納が進んでいくと思う。買い物や通院に行く手段が無いという形でアンケートに答えていただいていると思うが、公共交通を利用するにあたって、不便な地域の方々の交通手段を考えていただきたいと思う。

宮崎会長: ラストワンマイル・ファーストワンマイルという言い方があるが、バス停までの足なども問題になっている。ぜひその辺りも方法を考えていきたい項目だと思う。

5. 今後のスケジュール

(質疑等無し)

6. その他

近藤オブザーバー: 骨子案を見ていて思ったことは、ここに書いてあることは考え方を整理したものであり、ここに書いていないことを意識した方が良いと思う。この考え方に沿わないものは取り組まないということになるので、地域の皆さまでチェック等も含めて考えていただきたいと思う。

以上